

府中市民病院の医師を紹介します

府中市民病院では、日ごろから、懸命に診療に当たってくださっている医師に加え、昨年から多くの医師に着任いただき、診療体制の更なる充実が図られています。

府中市民病院婦人科（女性診察科）

周産期専門医としての多忙な医師人生の傍ら、幅広い年齢の女性にも向き合いたいと考え、女性ヘルスケア専門医としても活動してきました。女性は生涯を通してホルモンの影響を受けつつ生活を送ります。ホルモンの乱れは心身の不調ばかりでなく、骨や皮膚、血管、認知機能にも影響します。心身の疑問をお聞きし、そして病気になる方法をご提案できればと考えます。例えば、ホルモンの変化（生理不順・妊娠授乳・閉経周辺）は心身のゆらぎだけでなく、骨にも大きく影響することはご存じでしょうか。骨密度のピークは20歳、以降は減少します。将来の寝たきり予防のため、ホルモン変化の時期には婦人科受診（骨密度

検査もおこないます）をご提案します。

ご自身のからだを知ることで、もっと笑顔で活躍できそうです。女性特有の病気は多くありますが、発症前の予防は大切です。つらい生理痛は不妊症につながるかもしれません。がんは閉経後にも発症しますので検診は必要なのです。当院の婦人科外来が「あらゆる年齢の女性が心身の疑問を相談できる場」となれば幸いです。「女性医療」はひとりひとりに合った予防法や治療が特徴です。よい方法をご提案できますよう、女性市民・医師として皆様に向き合い歩んでいきたいと存じます。よろしく願いいたします。

牧野郁子先生

資格・専門医

医学博士、東京女子医科大学非常勤講師、日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本周産期新生児学会専門医・評議員、日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医、日本産科婦人科遺伝学会認定医、臨床研修指導医

前職

福岡大学医学部助教、国立成育医療センター、東京女子医科大学東医療センター講師、沖縄県立北部病院副部長

古川正愛先生

今年4月から勤務しています内科の古川 正愛（ふるかわ まさちか）です。「名前が読めません」と言われることが多いので、ふりがなをつけてみました。3月までは神石高原町立病院に勤務していました。神石にはコンビニが1件しかありませんでしたので、病院から歩いて行ける範囲にコンビニもスーパーもある府中は「都会だなあ」と日々実感しています。府中市民病院中心に勤務していますが、府中北市民病院にも月2回ほど勤務しています。両病院では、平成28年度にも非常勤として週2日勤務していましたので、全くの新天地での勤務というよりも、「久しぶりに帰ってきました」感を感じています。

医師になって約20年になりますが、おおよそ半分はいわゆる「医療過疎地」で内科医として勤務してきました。それ以外の勤務でも総合診療科として勤務していましたので、「普段はもちろん、

困ったときにオールラウンドに対応でき、必要があれば専門の先生につなぐ医者」であることをモットーに日々診療にあたっています。

どの科を受診したらいいかわからないときなど、ご相談ください。

府中は開業医の先生方も多く、市民病院を利用することがあまりない方も多いのではないかと思います。とはいえ、「市民病院」と銘打っている以上、市民の皆様にご利用いただき、関心を持ってもらうことが何より必要ではないかと思っています。まずは病院に関心を持っていただき、病院を利用していただきたいと思っています。そして、良いことでも、耳に痛いことでも構いません。皆様の思ったことを率直にご意見いただき、それに真摯に向き合っていくよう、日々頑張っていますので、よろしく願いいたします。

この約1年で新たに着任された医師をご紹介します。

問い合わせ先 府中市民病院（☎45-3300）

府中市民病院整形外科は手術を行っています！

昨年4月から府中市民病院で勤務している、整形外科の小川です。

当院は、2010年頃から整形外科は手術を行っていませんでしたが、私が赴任してから手術ができるようになりました。

日本は、世界の中で非常に高齢者が多い国です。その中でも特に府中市は65歳以上の高齢者の割合が35.3%で、日本の平均の26.6%に比べ、とても高いという特徴があります。そのため、病院を受診する患者さんは高齢者が大変多いのが特徴です。人間の体も機械の歯車と同じように、動く部分というのは長い間使っていると次第にちびてきたり、動きが悪くなってきます。たとえば、膝の関節や足の付け根（股関節）などは特に関節の軟骨がすり減ってきて、痛みが出やすい部位です。最初のうちは痛み止めを飲んだり注射をして痛みを減らすことができますが、それも効かなくなってきた

小川健一先生

す。府中に来て診察しているとそんな患者さんが非常に多いと感じています。痛み止めが効かない状態になったら人工関節の手術が必要になります。関節を人工の金具に置き換えるような手術です。

当院では、このような人工関節の手術や、腕や脚・骨盤の骨折、手のしびれや指の痛みに対する手術などを行っています。府中に来たばかりの頃は手術の件数も少なかったのですが、次第にクチコミで広がってきて最近では月に10例以上手術を行うようになってきています。麻酔や手術前後の全身管理も専門の麻酔科の先生がおられますのでご安心ください。

私は2002年から2019年まで福山市民病院整形外科に勤めていました。そこでは重傷の外傷、いわゆる大けがの患者さんを専門に治療してきました。その18年間に得られた知識と経験をもとにみなさまの治療に役立てていきたいと思っています。

赴任後約1年を迎えて

昨年の7月に府中市民病院に赴任しました。

整形外科の手術に際し応援依頼を受け招聘されたためです。幸いにも徐々にですが、整形外科の手術は増えています。また救急担当の看護師の方に救急車から直接連絡を受けるいわゆるホットラインを設置し、徐々に救急件数も増加しています。ただ、一方で昨年の3月には外科医師が3人離職し、9月には厚生労働省から統廃合の指定を受けた400余りの病院の一つになるなど、医師数の減少だけでなく診療科の減少が病院の診療機能を落としているのも現状です。

地域に必要な病院の要件として救急医療が真っ

宮庄浩司先生

先に挙げられますが、現在、府中市民病院は府中市内の救急患者を府中市内で診療し自己完結できる体制はなく、高次機能病院への転院搬送が多いのが現状です。国の提唱する地域包括ケアシステムからすると高齢化の進む地域での救急医療の在り方としては福山・府中圏域の総合病院に救急医療を任せるのも一つの方法かもしれません。ちょうどコロナ危機による医療崩壊危機が世間で叫ばれており、また従来の医療体制から大きく激変する時期に勤めることになり戸惑いながら業務しているのが現状です。

資格・専門医

救急科専門医、麻酔科専門医、呼吸療法専門医（人工呼吸専門医）、高気圧治療専門医、医学博士

前職

2019年3月 福山市民病院 副院長・救命救急センター・センター長を退職、現在に至る